

特定非営利活動法人分析産業人ネット

第 22 期活動報告

令和7年度

2025.4～2026.3

令和7年度の活動概要

全体の状況

令和7年度（2025年度）は米国の高関税政策により自由貿易の原則が揺らぎ、ウクライナとロシアの戦争状態、イスラエルとハマスの紛争も解決の目途がつかない状況の為、世界の経済秩序が揺らぎ、生産地域やサプライチェーンの見直し等が始まりました。金融市場では米国の金利が下がらず、日本の金利が上がらないために円安が進みました。

事業活動の概要

機器分析を担う専門家の人材育成事業として2つの事業を行っています。スクール事業の主力の通信講座を通年で開催し、講習会を5年ぶりに11月に2講座、開催しました。セミナーは今年も3月にPittconの展示会のある会議場でランチョンセミナーを開催しました。資格認定事業は機器分析を担当する専門家の資格「検査分析士」と機器分析の販売等を担う「検査分析マーケティングエキスパート」資格の認定試験を今年も2つの資格を同時に7月に全国一斉に行い、試験の日時と場所を任意に指定できる検査分析士資格認定試験の団体試験を実施しました。試験の合格者が会員となる検査分析士会は今年も研修会を6月と11月に東京と大阪で開催しました。現代社会の基盤を支える機器分析技術への理解と正しい活用を推進する振興普及事業は、JASIS展、CPHI展Pittconに出展をして当法人の活動の紹介と企業のマーケティング支援を行いました。吸光光度計の製造を行う簡易機器事業はアナログ吸光光度計の製造と吸光光度計の学習用組み立てキットの製造を行い、当法人のホームページを活用して販売をしています。

文化活動の概要

機器分析は専門家として取り組んでいるかただけでなく、機器分析を活用するのは先端の研究者から、工場等の品質管理部門の方や、医療での検査への活用、学生に機器分析の初歩を教える先生等、社会の多くの場所で実施されています。このように幅広い機器分析に関する活動の一端をエッセイとして捉えるナーチャー賞エッセイコンテストを毎年開催しています。また、日本語教育に力を注ぐタイ国の泰日工業大学の日本語スピーチコンテストとプレゼンコンテストの開催の支援を毎年行っています。

今期のトピックス

理事長の交代

当法人の創立3年後の2007年度から長きにわたり理事長として活動を推進してきた澤田嗣郎氏が健康上の理由から2025年5月31日に退任され、後任に宮村一夫氏が6月1日付けて就任しました。同時に創業時から副理事長として活動を牽引した村山健氏も健康上の理由から退任されました。

学習用組立ユニットのオプションとして蛍光測定ユニットを開発

「アナログ吸光光度計」の部品を使って吸光光度計が組み立てられる「学習用組み立てキット」を購入されたユーザーから、蛍光光度計として使いたいとの要望を戴き、組み立てキットの一部の部品を利用した蛍光測定ユニットを開発し、納入しました。この蛍光測定ユニットは光源の波長が392nmと吸光光度計の3色の光源より、紫外域にあるので、使用する時は人間の目に直接、光源の光が入らないように遮蔽できるようになっています。

Pittcon のコンファレンスで2つのテーマのセッションを主催

Pittcon は機器分析の黎明期の1950年に当時の鉄鋼業やガラス産業の中心であった米国ペンシルバニア州ピッツバーグ市ではじめられたコンファレンスです。当初から講演を行う技術プログラムと展示会が同時に開催され、以来この方式で開催されています。このコンファレンスの特徴は技術プログラムの企画を主催者のPittcon コミッティがすべて立案するのではなく、参加を希望する団体が技術プログラムのセッションのテーマの提案を出来ることです。当法人はこのPittconの展示会に2005年から出展を行い、2012年からは技術プログラムのセッションで1テーマの提案を行いセッションを主催してきました。今までの提案は分析化学分野のテーマでしたので、2025年から同時に分光光学分野のテーマの提案も行い、あわせて2テーマのセッションを主催しています。7名の講演者で構成されるセッションの講演は主に日本人の研究者が講演を行います。

20年記念誌の献本

当法人は昨年設立20年となり20年記念誌を製作しました。当法人のこれからの活動を持続していくために活動を担う後継者が必要です。このことを考慮して、記念誌は単に20年史とはせずにNP0法人の今までの活動を振り返り、今後の活動の継続を目指す一助となるように、会員の活動を中心として59名の方から寄稿をいただき編集をしました。この冊子について、東京都立中央図書館より、献本の依頼があり、献本しました。

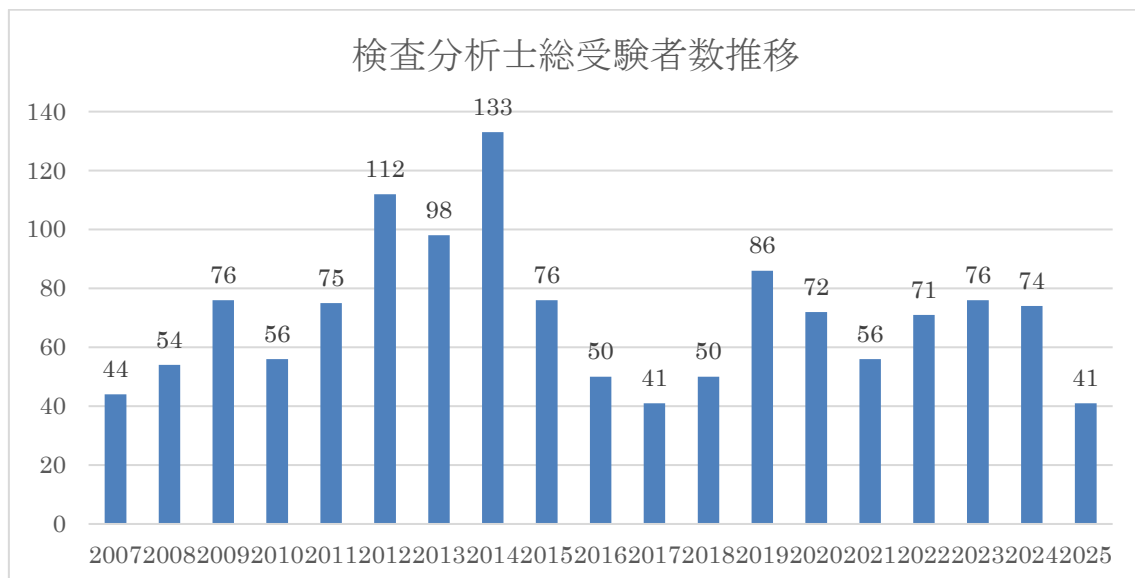
事業報告

I. 人材育成事業

当法人のビジョン「分析技術を担う、世界に通用する人材の育成」を目指して活動しています。

1. 資格認定事業

検査分析士資格は初級、中級、上級、特級と4段階の難易度を設けて認定を行い、検査分析士マーケティングエキスパート資格は初級、上級、特級と3段階の難易度を設けて認定を行います。エントリー資格の初級試験は両資格ともに認定試験用に独自に作成したテキストの範囲で4択50問の選択問題で実力の評価をします。認定試験の方法は会場を準備して行う一斉試験を2025年7月26日の午後、東京、大阪、仙台と福岡の4都市で行いました。名古屋と札幌については受験者がありませんでした。企業内で行う団体試験は1月に1社に対して実施しました。この結果、一斉試験の受験者は初級19名、上級2名、団体試験の受験者は初級13名となりました。また大学の課程履修での資格認定希望者は9名でした。その結果、受験者総数は41名となりました。一斉試験の初級合格者は12名で団体試験の合格者は6名、課程認定合格者は14名で計29名の方が初級検査分析士となりました。資格取得者が入会できる検査分析士会の研修会が今年も6月と11月に東京と大阪で開催されました。



2. トリニティースクール事業（講習会・通信教育事業）

講習会は2テーマで開催しました。通信講座は履修期間1カ月のユビキタス講座、3か月のパーマナント講座とも受講者は昨年並みでした。

Ⅱ．振興普及事業

当法人のビジョン「社会基盤となる分析技術に関する技術の普及」を目指して活動しています。

1．ビジネス支援事業

マーケティング支援事業は出展する3つの展示会で実施しました。4月に開催されたCPHI展（国際開発医薬品展）では1社に対してマーケティング支援の展示代行を行いました。9月のJASIS展（最先端科学・分析システム&ソリューション展）では2ブース出展をし、1社に対してマーケティング支援のアドバイスを行い、JASIS展に出展したPittconブースの支援も行いました。3月に米国のサンアントニオで開催されたPittcon2026カンファレンスではブース出展とセミナーを2つ主催し、1社のマーケティング支援を実施しました。また、昨年に引き続きランチョンミーティングを開催し23名の参加者に対してPittconの展示会の特徴や歴史等を中心に紹介をしました。

研修支援事業は実施しませんでした。

2．ネットバザール事業（通信販売事業）

今年度も蛍光X線分析で使用するプラスチックフィルム等が年間を通じて安定した受注があり、アナログ吸光光度計はケニス社からの受注が減る一方でホームページ経由の受注が増加しました。また、アナログ吸光光度計とともに学習用組み立てキットの受注が増加し、学習用組み立てキットはアナログ吸光光度計にならぶ受注件数となりました。

3．コンテンツ制作事業(出版及び動画制作)

ナーチャー賞エッセイコンテスト受賞作品集2025の製作を行いました。

4．簡易機器事業

今年度は学習用組み立てキットを使って蛍光測定を行いたいとの要望を受けて励起波長が392nmの蛍光測定ユニットを制作しました。アナログ吸光光度計の販売数は減少したものの組立キットの販売が好調でした。吸光光度計の技術を利用するデジタル表示の蛍光光度計製作のためのデジタル表示ユニットを開発しました。アナログ吸光光度計を利用する化学物質の検出法、学習用組み立てキットの拡張型製品についての商品化は進みませんでした。

Ⅲ. 文化活動

日本では「社会基盤となる分析技術に関する技術の普及」のビジョンにそって、タイ国では「分析産業人ネットの慈善活動」で掲げたビジョンに基づいて活動を展開しています。

1. ナーチャー賞エッセイコンテストの開催

今年で 17 回目となる機器分析に関するエッセイを対象とするナーチャー賞エッセイコンテストは募集を 9 月に開始、告知を例年通り複数の募集サイトに掲載して行いました。11 月 26 日に応募を締め切り 31 名の方から応募がありました。機器分析に関連しない投稿が 4 件ありました。これらを除くと応募者の内訳は新規応募が 14 名、リピーターが 13 名でした。受賞者は大賞 1 名、優秀賞 3 名、スティディオス賞、ノヴィ・ホミネス賞、ファーストペンギン賞、カルチュラアナリティカ賞、各 2 名の計 12 名でした。1 月 18 日に東京で受賞者 4 名が参加して授賞式を行いました。

2. タイの泰日工業大学 (TNI) の日本語スピーチコンテストの支援

全学生が受講する日本語講座が終了する 3 年前期の終了後の 10 月に全学の学生を対象とした 3 名で行うプレゼンコンテストと、主に日本語ビジネスコースの学生を対象として行われるスピーチコンテストがあります。今年の第 15 回プレゼンコンテストは 10 月 28 日に開催され 15 チームで予選を行い 10 チームが参加し「就職したい会社と仕事内容とそのために必要なスキル」をテーマとする内容のプレゼンで優劣を競いました。また第 17 回スピーチコンテストは 2 月 18 日に開催され、日本語能力試験 N3 以下と N2 以上の 2 つのグループに分かれて実施されました。N3 以下のコンテストは「〇〇に感謝したいこと」のテーマで予選を勝ち抜いた 7 名で競い、N2 以上のコンテストは自由テーマで 3 名が競いました。

3. タイの泰日工業大学で日本語教師用に参考図書の寄贈

全学生に日本語学習の履修を実施する泰日工業大学の日本語教室の指導者にはタイ人と日本人の先生がおり、学生が履修する教材を独自に作成しています。教材作成の参考にする本はほとんどが日本で出版されているためタイで入手することが困難な書籍がすくなくありません。そこで日本語教室の先生方が希望する図書を毎年、日本で調達して寄贈しています。

IV. 法人の運営状況

運営に関する業務は、東京都千代田区の事務所で行いました。

1. 組織

当法人の運営は理事会で経営方針、経営計画等を審議し、事業の具体的な活動方針は理事と正会員、及び外部の委員も加えた人材育成委員会、資格推進委員会等の委員会で方針を審議します。具体的な実務は、理事会等で決められた方針、計画に基づいて事務局で行います。正会員だけでは対応できない検査分析士資格認定試験の問題作成等については必要に応じて外部に委託または会員とボランティアの専門家により実施しています。ナーチャー賞エッセイコンテストは公正を期するため会員と外部の有識者による13名の審査委員により点数による評価を行い、この結果を踏まえて選考委員会で受賞者を決めています。事務局は理事1名と職員1名の2名で通常の業務を行い、検査分析士の試験監督や展示会の展示要員等の一部はアルバイトを採用しています。

2. 財務

当法人は外部資金に依存せずに会員からの会費収入と、当法人が行う事業収入により活動をおこなうことを目標にしています。しかし、会費収入と事業活動による収入に対して現在、展開している活動にかかる費用をすべて賄うことは出来なかったため、今年も活動を継続するために不足する資金を外部からの寄付と理事を含めた会員の寄付により補充しました。

3. 投資

今年度も昨年と同様に円安の影響でタイの泰日工業大学への支援や米国のPittcon2026への参加費用等の負担が大きく、開発につながるような投資は出来ませんでした。

4. 広報

当法人は正会員・賛助会員むけに季刊誌「NURTURE」を検査分析士会会員向けに季刊誌「SHUHARI」を発行、ホームページは日本語の分析産業人ネットと独立した英文のホームページと検査分析士会のホームページで情報発信をしています。分析産業人ネットのホームページは、スクール事業の受講の申込、検査分析士資格試験の申込、ネットバザールでの消耗品等の販売、エッセイコンテストの募集等の機能を備えています。検査分析士会ホームページでは機器分析に関する情報を中心にして情報を発信しています。

特定非営利活動法人分析産業人ネット

英文名 Professionals' Net Work in Advanced Instrumentation Society

設立 2004 年 11 月 24 日

事務所所在地 〒101-0063

東京都千代田区神田淡路町 2 - 6 淡路ビル 4 F

電話 03-5294-3115 FAX 03-5294-3344 E-mail info@pai-net.or.jp